

一般質問（文書質問）

議員名 河野 節子

<質問項目>

- 1 香取市内の医療連携と感染症対策について
- 2 市民に対する情報提供の在り方について
- 3 大型公共事業の見直しについて

<質問内容>

- 1 香取市内の医療連携と感染症対策について

① 新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めたころから、市内の医療機関でも発熱外来を設けたり、対策を講じた病院やクリニックもあると思いますが、発熱外来を設けた市内の医療機関の状況と保健所の検査体制はうまく連携できていたのでしょうか。市としてはその実情をどのくらい把握していたのか伺います。（発熱外来の医療機関件数、PCR 検査の件数）

② 市内の感染者については、4月8日以来、陽性の感染者が出ていないのは不幸中の幸いです。

北総育成園関係の感染者にとどまっていたのかかもしれませんが、実際無症状の陽性者もいるとのことに、市民は非常に不安を覚えていました。今後また、第2波、第3波の流行が予測されますし、或いはインフルエンザとの同時流行など今年の冬に向かって油断は禁物であると同時に、今からでも医療的な対策の準備をしておく必要があると思います。

そこで、現在、市内の医療機関に備えられている防護服等の感染予防のための医療器具、又、感染者を収容できる病床数はどの位あるのか、伺います。また、十分でないとしたら、今後市としても準備をしておく必要があると思うのですが、市の考えを伺います。

③－④ 感染症対策には、特別に感染症に秀でた医師や感染症対策認定の看護師が必要とされます。そこで、香取市として、市立香取おみがわ医療センター及び看護学校の人材を養成しておくべきと考えますが、市の考えをお聞きします。(そのための予算であれば市民の安全、安心のために理解を得られると思う。)

③－⑤ 香取おみがわ医療センター付属の看護学校は、病院の病床縮減に伴って、学生数も縮小され1クラスとなってしまいました。佐原の准看護学校とも連携し、即戦力として現場で働ける看護師を養成しています。全国的にこのような感染症対策において、看護師不足が問題となっている折、地元で供給できる学校があることは非常に心強いことです。今まで1000人以上の卒業生を輩出し、旧小見川総合病院には7割、佐原県立病院には3割そして地元の病院にも多くの卒業生を供給していると聞いていますが、そういう意味でも、この地域の医療機関にとっては、なくてはならない宝だと言っても過言ではないと思います。しかし、この看護学校がなくなるのではないかと不安の声が聞こえてきます。この看護高等教育学校をよもや失くす様な事はないと思いますが、市長のお考えをお聞かせください。

④ もしも、香取市において感染者が多数出た場合、医療崩壊を起こさないための対策はどのように考えているか伺います。

軽症者の収容場所や医療関係者の協力体制等。

⑤ 長期に渡る学校の休校措置と、自宅での自粛生活で、子供達のストレスは募っていると思われていますが、この期間の問題行動はなかったでしょうか。市において把握できている問題があれば伺わせてください。また、今後、学校が始まってからも、子供たちのメンタルケアはどのように対処する予定かも伺います。

⑥ 昨年は、千葉県が台風の直撃を被り、被害も甚大な上に、初めての避難勧告が出され、市民の皆さんは大変な思いで、避難所に駆け付けた経緯があります。今年も異常気象の影響で、どのような災害に見舞われるかわかりません。

また、現在非常事態宣言が出され、三密防止策がとられているわけで、このような対策が相矛盾する状況になった場合の香取市の対応はどのように考えているか具体的にお聞かせください。

## 2 市民に対する情報提供の在り方について

① テレビや新聞で新型コロナウイルス感染症のニュースや情報を得ている市民にとって、北総育成園での集団感染は、全く予期せぬ身近に起こった事件で、あの時は皆さん非常に不安に駆られました。しかし、正確な情報があれば、落ち着いて、冷静に対処できるし、デマなどの不確定情報に惑わされることもないことは、昨年の台風時の情報提供の在り方においても指摘していたことです。私も、当時、皆さんから、身近な情報が欲しいと懇願され、情報収集に努めたのですが、千葉県からの情報提供がないので香取市としては何も出せないとの事でした。

千葉県の対応にも非常に問題があると思いますが、香取市として、市民に安心を与えられる情報の提供はできないものでしょうか。

② HPを見られる人はまだ限定されています。人口の3割以上が高齢者の香取市

において、市の方からはHPに出しているからと言われても、実際に情報が市民に伝わっていないのが現実です。紙ベースの情報提供には時間が掛かり、即時性に欠けます。そこでやはり防災無線が市民にとっては馴染みのある有効な情報伝達手段と言えるのですが、毎日同じことをここ約二か月間流していることに市民からの苦情が出ています。そのような市民の声は市に届いていないのでしょうか。

近隣の町では学校の休校でストレスをためている子供たちに対し、学校の先生方がメッセージを放送で流し、大変好評を得ているとのこと。また、自粛生活で運動不足になっている住民に対し、毎日10時にラジオ体操を流している自治体もあります。

このような時こそ防災無線の使い方を工夫し、地域における市民の要望に応えられるよう活用すべきではないでしょうか。防災無線の使い方支障になる要因は何か伺います。また、改善すれば有効に使える方法はないかもお聞きします。

### 3 大型公共事業の見直しについて

世界中にパンデミックを引き起こした新型コロナウイルス感染症は、人々の生活様式や社会経済にも大きな影響を与え、今までの価値観や常識を破る変革を余儀なくされる時代の到来を感じさせています。急激なテレワークの普及や、学校の9月入学制度を導入しようという動きも、このようなことがなければ表面化しなかったでしょう。

地方自治体にとっても、今までの単に国に従った行政ではなく、独自の政策を持った知事の力量が問われ、まさに地方自治が問われていると言っても過言ではないと思います。

当香取市においても、いろいろな施策の見直しが必要になってくるものと思われます。今後とも、新型のウィルス感染症という見えない敵との戦い、或いは共生するための施策が求められ、市民の命と安全、安心を守るための予算編成も必

要となってくることでしょう。地域経済を維持し、市民の生活を守るための施策にも予算付けをしなければならなくなると思います。

グローバルな時代だからこそ起こるパンデミックによって、このような異常事態が長期に渡って続き、市民の生活を脅かすようになるとは、だれが想像できたでしょう。昨年12月議会において、佐原駅周辺地区拠点整備事業に65億7千万円の債務負担行為を締結する議案が上程された折、私は、15年先の見通しができず不安なため、反対の意思を表わしましたが、まさか半年もたたないうちにこのような事態が起ころうとは思ってもよらないことでした。しかし、これが現実です。

1月から4月までに全国で倒産した企業は2800件にも上り、一年では一万件になると予測されています。今ならまだ間に合うと思いますので、香取市にとっての超大型事業である、佐原駅周辺地区拠点整備事業と36ホールのパークゴルフ場を含む橘ふれあい公園の整備事業について見直していくお考えはないか伺います。

旧清見屋跡地の複合施設については、建設はもとより、維持管理についても15年先などわからない時代に、市民の財産となる施設の運営を任せる事業体にはよほどしっかりとしたチェック機能を働かせなければなりませんし、今後人口も減少し、財政的にも決して裕福とは言えない香取市の身の丈に合った計画とすべきと考えます。

橘ふれあい公園については、パークゴルフの全国大会を開催できるようにとか、北海道からの集客を狙ってとかの目的で36ホールにこだわってきた経緯がありますが、このような事態を想定した民間事業者がいるのかどうか。そして、もしも民間が手を引いた場合、今後の香取市が担っていけるとは思えません。規模を小さくしてもせめて市民が有効に使える公園整備を望みます。

当初予算では、上記二つの事業にそれぞれ3億余の予算が計上されていました

が、まずは今年度の執行を止めて、じっくりと考え直していただきたいと思うのですがいかがでしょうか。

<答弁内容>

1 香取市内の医療連携と感染症対策について

- ① 発熱外来についてですが、新型コロナウイルスの感染が疑われる人が受診できる体制が整った外来がある医療機関として、「帰国者・接触者外来」が設置されております。5月25日時点で千葉県では65の医療機関が設置されておりますが、医療機関名等は非公表となっております。感染疑いのある発熱者等についての相談は、帰国者・接触者相談センターである保健所に一元化されており、かかりつけ医への相談があった場合も、保健所に連絡がなされ、受診が必要であると判断した場合に「帰国者・接触者外来」への受診調整が行われております。

香取保健所に確認したところ、「帰国者・接触者外来」とは別に、受付時に一般診療の患者と発熱症状のある方を分けて受診対応した市内医療機関は、保健所が把握しているのは3施設と伺っておりますが、各医療機関においては、感染症が疑われる発熱者が来院した時は、各医療機関による感染防止に配慮した対策方法により対応がなされ、感染の疑いがある場合は保健所へと連絡がなされております。

香取保健所での集計によりますと、5月25日現在、香取保健所で検体採取または検査したPCR検査実施件数が1,192件、その内、医療機関から依頼があり実施した件数が423件となっております。

香取おみがわ医療センターでは、「発熱患者対応外来窓口」をつくり対応しております。

5月末までは、正面玄関で、付き添いの家族も含め来院者全員の体温測定を実施し、感染が疑われる者とそれ以外の患者が接触をしないよう動線を分離してい

ました。また、入院患者の面会も中止していました。

6月1日からは、看護師が正面玄関で、発熱等患者等のスクリーニング（対象者の選り分け）を行っております。また、入院患者の面会を一部緩和しております。

検査における香取保健所との連携については、担当者同士で電話やメールで連絡を取り合い、検体採取とPCR検査の調整を図っていました。休日・夜間は、千葉県の窓口連絡し、折り返しの連絡を待つ体制で対応していました。

3月6日からPCR検査が保険適用の対象となったこともあり、現在は、保健所に確認せずとも、医師の判断で検体採取を行い、PCR検査を保健所に依頼しております。

【福祉健康部】

- ② 医療機関において備蓄されている医療資材については、各医療機関により管理されており、香取おみがわ医療センターの備蓄以外は市では把握していない状況です。

市に対して、直接医療機関からの要請はありませんでしたが、5月27日現在、寄付をいただいたフェイスシールド4,920個、マスク10,000枚について、香取郡市医師会、香取匝瑳歯科医師会、香取おみがわ医療センターに配付しました。

香取保健所においては、要請があった医療機関には、保健所備蓄品及び県から配付のあったサージカルマスク、フェイスシールド、アイソレーションガウンなどの医療資材を、保健所管内8医療機関に配付していると伺っています。

また、千葉県の6月補正予算案により、医療機関向け個人防護具・消毒液の確保・配布について、予算計上がされております。

香取市においても緊急事態に備え、感染小康期において、流通状況を見ながら、必要な医療資材の確保に努めてまいります。

感染者を収容できる病床につきましては、県において調整を行うため、5月26日現在、千葉県内では公表されている819床が確保されている状況ですが、具体的な医療機関名等は非公表なため、市内においての受け入れ可能病床数は不明となっています。

今後についても、必要な病床数については、千葉県において確保していくものと考えています。

香取おみがわ医療センターの防護服等の医療物資の備蓄状況は、ここ最近になってようやく、個人用防護具（PPE）の納入が行われるようになりましたが、院内感染を長期的に防ぐだけの量が十分にある状況ではありません。今後も継続的に医療物資の確保に努める必要があります。

感染者を受け入れる病床としては、千葉県からコロナ感染症患者受入れのための病床確保の準備をするよう指示をうけております。

【福祉健康部】

③ー④ 香取おみがわ医療センターでは、感染症対策のため、看護師の中から感染管理者を選任し感染防止対策の基本的考え方や具体的方針について、研修を通じて職員に周知徹底を図っています。

また、国保旭中央病院から感染症専門医を招き、当院の実情に応じた職員研修を行い、感染症に関する知識の習得に努めています。

【香取おみがわ医療センター】

③ー⑤ 香取おみがわ医療センター附属看護専門学校は、昭和61年に、当時国保小見川中央病院での看護師不足解消を目的として、主に病院に勤務し看護師資格の取得を目指す准看護師に、必要な教育を行うための機関として、設置されました。

その後、35年にわたり、延べ1,000人以上の卒業生を輩出してきました。直近

の5年間では、132人が卒業し、そのうち、千葉県内の医療機関で96人、うち香取市内の医療機関で38人が活躍しているところです。

香取海匝医療圏をはじめとする千葉県内では、看護師が不足している状況にあり、看護師養成への継続的な取り組みは、今後も必要と考えます。

その一方で、近年、学生の確保、老朽化した校舎の改修に伴う財源確保が、学校運営上の課題となってきております。

地域医療を担う医師や看護師等の医療人材確保は、香取地域における安心・安全の医療体制の持続に欠かせない要素ですが、その核となる香取おみがわ医療センターの病院事業運営の健全化も重要な課題です。

香取市では、今後、更に少子高齢化が進み、生産年齢人口が10年で22%減少する見込みです。

こうした社会的背景を踏まえ、看護師養成の取り組みも、病院運営の一環である以上、「適切な経費規模で、必要十分な成果を出す」効率的な取り組みが求められることから、看護専門学校のあり方について検討を始めたところです。

【福祉健康部】

- ④ 感染者の入院受け入れ可能病床及び療養施設の確保については、県において調整が行われております。

千葉県内においての体制は、5月26日現在、入院受け入れ可能病床819床、受け入れ可能宿泊療養施設736室が確保されています。

また、香取保健所では医療崩壊を起こさせないための具体案として香取海匝地域医療連携を考えており、香取市としましても県、保健所、香取郡市医師会等と連携し、これに協力していく所存です。

⑤ 児童生徒の問題行動は、特に報告されておられません。

しかし、家庭で過ごす時間が多く、生活リズムの乱れを指摘する保護者が多くいました。子供は友達と学び合ったり、遊んだりすることができず、ストレスが溜まった状態にあります。また、年度末のまとめや年度当初の学級開きができずに約3か月ぶりに学校生活を迎えることになるため、一人一人に対して心に寄り添った支援が必要になります。

そのために、段階的に学校を再開し、少しずつ通常の学校生活に戻れるようにしています。まず、5月中に個別または少人数での指導をとおして、担任等と相談しやすい人間関係をつくりました。6月に入り、半日の学校生活を行う中で、新しい学習内容や方法を学んだり、友人との関係づくりをとおして、学校生活に慣れるようにしていきます。そして、今後、一日の学校生活を送るにあたり、担任だけでなく、養護教諭やスクールカウンセラーを活用するなど学校体制で教育相談活動を充実させていきます。

⑥ 新型コロナウイルスが収束しない中での避難所の三つの密を避ける対策ですが、避難所については、国からの通知により、可能な限り多くの避難所を開設することや、親戚や友人の家等への避難の検討、避難所の衛生管理、十分な換気の実施、スペースの確保などの留意事項が示されたところであります。

このような中、避難所の居住スペースについて、これまでの一人4平方メートルのほかに、3つの密を避けるため、人と人との距離をできるだけ2メートルを目安に確保することが求められております。

そのため、避難所設置にあたっては、なるべく多くの避難所を開設し、感染防

止対策を講じた対応が取れるよう準備を進めております。

また、これに加え、駐車場での車中避難を想定し、避難所の駐車スペースの確保やゴルフ場などの民間施設の駐車場スペースの活用について、協議をしております。

このほか、避難所の感染リスクを含め、自宅や知人宅等への避難や避難所の留意事項について、「香取市ホームページ」や「広報かとり」に加え自治会あて「回覧文書」等周知を図っております。

【総務企画部】

## 2 市民に対する情報提供の在り方について

香取市防災行政用無線の運用については、電波法による無線局として許可を受け運用をしております。

香取市では、電波法に基づき、香取市防災行政用無線局の運用細則を定め、放送事項として「地震、台風等の非常事態に関すること」、「人命その他特に緊急重要なこと」、「市行政の普及及び周知連絡に関すること」としております。

今回、新型コロナウイルス感染症蔓延防止対策の一つとして、防災行政用無線を活用いたしました。

この放送について市民から改善要望などの指摘がありました。

防災行政用無線という性格上、簡潔な表現とし、感染拡大防止にもっとも大切な外出を控えること、3密を避けることについて重点的に放送しました。

香取市といたしましても、市民へ情報を伝える手段の一つとして防災行政用無線は、重要であると考えております。

しかしながら、その運用については、市民の方からの様々な意見等が寄せられ

ております。例を申し上げますと、乳幼児を持つ家庭や、夜間勤務で日中睡眠を取っている方から騒音としての苦情。放送が長文になる場合や屋外子局が集中し反響する地域からは内容が伝わらない。また、風雨時には聞こえないなどの意見が寄せられております。

こうしたことから、その都度、放送の目的や必要性、代替性を検討するほか、放送文の内容について、伝えたいことを絞り、簡潔にするなどの工夫をしております。

また、防災メールの登録を案内し、これまで6,215人の方に登録いただいたほか、戸別受信機など、個別の対応についても進めております。

【総務企画部・福祉健康部】

### 3 大型公共事業の見直しについて

大型公共事業である佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業と橘ふれあい公園整備事業は、これまで市民の皆様や議員の皆様のご意見を踏まえながら、規模や機能等について検討を重ねてきたもので、今年度につきましても関係予算、債務負担行為等の議決をいただき事業を進めているものです。

いずれも市民の皆様にとって必要な施設であると同時に、香取市のまちづくりに不可欠な都市機能でもあります。

加えて、事業の推進は新型コロナウイルス感染症により落ち込んだ地域経済の活性化にも寄与することから、現状といたしましては、新型コロナウイルス感染症の影響等により、スケジュール変更等は想定されますが、予定どおり、事業を進めてまいりたいと考えております。

【総務企画部・建設水道部】

一般質問（文書質問）（再質問）

議員名 河野 節子

<質問項目>

- 1 香取市内の医療連携と感染症対策について
- 3 大型公共事業の見直しについて

<質問内容>

- 1 香取市内の医療連携と感染症対策について

①－1 新型コロナウイルス感染の心配がある場合、受診できる医療機関として「帰国者・接触者外来」が65か所設置されているとのことですが、その医療機関名が非公表ということでは、市民はどこに行ったらよいかわかりません。しっかりとした感染防止体制が整っている医療機関として情報を提供できないのでしょうか。

また、PCR検査が保険適用になり、医師の判断で検体採取ができるようになっているわけですが、その検査ができる医療機関は香取おみがわ医療センターだけですか。それとも他の医療機関でもできるのですか。

①－2 情報の提供ということでは、市からの正確な情報提供はデマなどの不確定な情報を抑えることができ、市民の注意を促すことになり、不安の軽減にもつながります。

勿論感染者やその家族、或いは医療従事者などに対する差別や偏見、誹謗中傷などが無いよう十分な対応は必要ですが、個人情報保護を過度に重視しすぎて、

情報の提供を控えているのではないかと思います。

少なくとも、市民の求める情報を提供していただきたい。

② 香取おみがわ医療センターも新型コロナウイルス感染患者受け入れのための病床を確保するよう県からの指示を受けているそうですが、医療物資が十分に備わっていなければ対応が難しいと思います。院内感染が危ぶまれる状況で、外来の医師なども非常に危機感を持っています。早急に医療物資の確保を強く要望します。そして県の補正予算だけでなく、市においても財源を確保しておくべきと思いますが、6月補正予算には入っていませんでした。今後の財源措置はどのようにするつもりですか。

③-④ 今後の医師の招聘策としても、成田市にオープンした国際医療福祉大学とのパイプもしっかりとつないでおく必要があると思いますがいかがですか。

③-⑤ 医師のみならず看護師についても千葉県は特に不足している状況にあり、更に医療へき地と言われる地方においては少ない医師の片腕として看護師がその役割を果たしていると聞いています。

看護専門学校が存在は、地域医療を担う拠点としての香取おみがわ医療センターの看護師確保策としても重要ですが、地域に根差した看護師の養成学校としてもその存在意義があるのではないのでしょうか。市長のお考えをお聞かせください。

そして、即戦力として現場で働ける看護師を養成している看護専門学校をぜひとも存続させるよう強く要望します。

看護専門学校の在り方についての検討を始めているとの事、運営上の課題として、学生の確保や老朽化した校舎の改修などに伴う財源の確保が挙げられていますが、この学校の存在意義は単に香取市に限らず、佐原准看護学校を運営する市

内の医師会や香取・海匠地域、鹿行地域の医師会に対しても看護師の供給に貢献しているわけですから、是非ともそのような団体にも協力を呼びかけ積極的に、広域での財源確保はできないものでしょうか。

また、へき地医療に対する補助金のような支援策は看護学校に対してはないのでしょうか。

⑥ 昨年の台風襲来時の避難所に対する問題点はどのように改善されているのでしょうか。

㊦ トイレの件(特に閉校になっている学校の和式トイレは使えません)

㊧ 体育館だけでは到底収容しきれないが、一般教室は解放されるのか

㊨ 高齢者や妊婦、乳幼児を連れた母親等への特別な配慮は

㊩ 新型コロナウイルス感染症対策としての備品は十分準備されているか

㊪ 新型コロナウイルス感染症対策として、段ボールのベッドやパーティションの備蓄はあるか

あらゆる災害を想定し、更に新型のウイルス感染症対策を練らなければならないわけですから、非常に大変ですが、市民の安全、安心のために万全を尽くせるようお願いいたします。

### 3 大型公共事業の見直しについて

① 答弁によれば、「佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業と橘ふれあい公園整備事業は、これまで市民の皆様や議員の皆様のご意見を踏まえながら、規模や機能について検討を重ねてきたもの」とのことで、予定通り事業を進めていきたいとの事。

しかし、当初この計画について市民の意見を聞いたのは、もう既に数年前になり、刻々と変わる社会情勢に追いついていかないどころか、今回のような新型コ

コロナウイルスの感染症による人々の生活様式や社会経済への甚大な影響を誰が予想していたでしょうか。

12月議会でも15年先の保証はできないと主張しましたが、半年も経たずにこの有様です。

市民の意見を聞いての計画というのであれば、「本当に市民にとって必要な施設かどうか」今一度市民に問いかけるべきと考えますがいかがですか。

- ② 国も今回の新型コロナウイルス感染症対策に莫大な赤字国債を発行して、国民の窮地を救う施策を打ち出しています。そしてこの新型コロナウイルス感染症が終息せず長期に渡っての対応が迫られている現状で、今後とも集中して予算は新型コロナウイルス感染症対策に向けられていくでしょう。また、国民に生活様式の変革を求め、疲弊した経済を立て直そうと、その為の施策に予算付けがされるでしょう。そういう状況下、大型公共事業の財源として当てにしている社会資本整備交付金は、果たして期待通り交付されるのでしょうか。

されなかった場合は、当然香取市民の税金（真水）である一般財源からの持ち出しとならざるを得ません。ましてや、維持管理費については、当初より市民の税金が投入されるわけですから、主権者であり納税者である市民に対しては、市として説明責任があると思います。

そこで、交付の見通しと市民に対する状況説明をどの様に考えているか伺います。

- ③ 橘ふれあい公園については20年、旧清見屋跡地を利用した複合公共施設については、15年という長期の維持管理を委託する債務負担行為について、一寸先は闇というような社会情勢の中で、民間事業者の倒産は視野に入れておかなければならないと思いますが、保証はどのようにされるのかお聞きします。民間では長

期の契約の場合、最初に保証金を積ませるとかの方法を取ってシビアに対応させているそうですが、香取市の市民の税金を使っている公共事業の場合、どのような契約となっているのでしょうか。

<答弁内容>

1 香取市内の医療連携と感染症対策について

- ①-1 息苦しさを強いだるさ高熱などの強い症状がある場合はすぐに、また、比較的軽いかぜの症状が4日以上続く場合にも必ず、帰国者・接触者相談センターである保健所へ相談し、感染が疑われると判断された場合には、保健所から「帰国者・接触者外来」を紹介し、受診していただきます。

香取おみがわ医療センターでは、検体採取は実施していますが、PCR検査は行っておりません。

市内の各医療機関でも検体採取を行っている医療機関はありますが、香取保健所管内のPCR検査は、香取保健所と千葉県衛生研究所で実施しております。

【福祉健康部】

- ①-2 情報の公表に当たっては、適時適切な情報の公表が必要と考えています。感染者の公表については、保健所を所管する地方自治体でなされることになっており、保健所を所管していない一般市である香取市で感染者が確認された場合は、千葉県が公表することとなっています。

新型コロナウイルスの正確な感染情報は、千葉県から公表される情報のみです。新たに感染が発生した場合も、感染者の情報については、個人のプライバシーに配慮し、本人等の同意が得られた範囲で、年代、性別、市町村単位までの居住地、職業、推定感染経路、発症日、検査確定日、発症2日前からの行動歴等が公表されます。

市としても、混乱を招かないよう正確で必要な情報のみを速やかに提供するよう心がけています。

【福祉健康部】

- ② 香取おみがわ医療センターで新型コロナウイルス感染症患者を受け入れることとなった場合、現在の状況で70日程度の備蓄はありますが、今後も継続して医療物資の確保に努めてまいります。

なお、当医療センターの医療物資確保に関しては、今年度予算で対応する予定ですが、状況によっては、今後補正予算等の措置も考慮する必要があります。

【香取おみがわ医療センター】

- ③-④ 香取おみがわ医療センターでは、本年度の4月から、国際医療福祉大学から非常勤医師の派遣を受け、形成外科診療を開始しました。

今後も大学病院と連携し、医師の招聘に努めてまいります。

【香取おみがわ医療センター】

- ③-⑤ 香取おみがわ医療センター附属看護専門学校については、運営母体である香取おみがわ医療センターの経営が、大変厳しいものとなっております。

看護師養成のための重要な役割を担っている看護専門学校は、何としても継続したいという強い思いがあります。

しかし、一方で香取おみがわ医療センターの経営を圧迫するようなことがあってはならないということも現実です。

こうしたことから、現在、「香取おみがわ医療センター附属看護専門学校あり方検討委員会」を立上げ、他の自治体等からの協力を得ながらの運営や、運営形態

の変更なども視野に、あらゆる選択肢を排除することなく、看護専門学校のあり方について検討しているところです。

へき地医療に対する補助金については、千葉県はへき地の指定を受けた地域はなく、へき地医療に対する補助等はございません。

【福祉健康部】

⑥ー㉞ 閉校した小学校 9 校で洋式トイレがある体育館は、6 校で、残り 3 校にはありません。

この 3 校を含め、洋式トイレがない避難所に対応するため、洋式ポータブルトイレを購入いたしました。

【総務企画部】

⑥ー㉟ 状況に応じて、体育館のほか、校舎の活用も考えており、使用条件等について、教育委員会と協議をしております。

【総務企画部】

⑥ー㊱ 高齢者や妊婦、乳幼児を連れた母親などの「災害時要支援者」への配慮は必要であると認識しております。このため、避難所の運営方法や避難所レイアウト等について検討を進めております。

【総務企画部】

⑥ー㊲ 避難所で使用する消毒用アルコール、体温計等については、購入の準備を進めております。

また、これに加え市民の方々へは、避難所での個人の衛生用品について、通常の避難携行品以外に、マスク、手袋、体温計、ペーパータオルや消毒用シート、

ゴミ袋等の持参をお願いするとともに、感染リスクを含め、自宅や知人宅等への避難や避難所の留意事項について、「香取市ホームページ」や「広報かとり」に加え自治会あて「回覧文書」等で周知を行っております。

【総務企画部】

⑥ー④ 間仕切りや、ベッドについては、現状の備蓄に加え、今後、追加で購入の準備を進めております。

【総務企画部】

### 3 大型公共事業の見直しについて

① 佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業及び橘ふれあい公園整備事業は、これまで市民の皆様や議員の皆様のご意見を踏まえながら、規模や機能等について検討を重ねてきたもので、コスト削減も図ってまいりました。今年度につきましても関係予算、債務負担行為等の議決をいただき事業を進めているものです。

今後につきましても市民の皆様の代表である市議会において、議決をいただき進めてまいります。

【総務企画部・建設水道部】

② 社会資本整備総合交付金について、新型コロナウイルス感染症の影響による制度変更、交付率等の変更は、国より特段の通知・連絡はなく、現在のところ通常どおり執行されていますので、引き続き、交付金の交付がなされるものと考えています。

市民への説明につきましては、落札者決定後に広報かとりや香取市ウェブサイトによりお知らせいたします。

【総務企画部・建設水道部】

- ③ 長期に及ぶ維持管理運営期間中の民間事業者の倒産リスクについては、存在すると考えておりますが、維持管理運営費は、事業者が提供する維持管理運営業務のサービス対価として、各年度の四半期毎に委託費を支払うこととしております。事前に多額の委託費を支出しないことでリスク分散を図ることとしています。

【総務企画部・建設水道部】